

子供の安全守ろう「集い」で誓い新た

危険判断力を

取り組み報告や講演

奈良

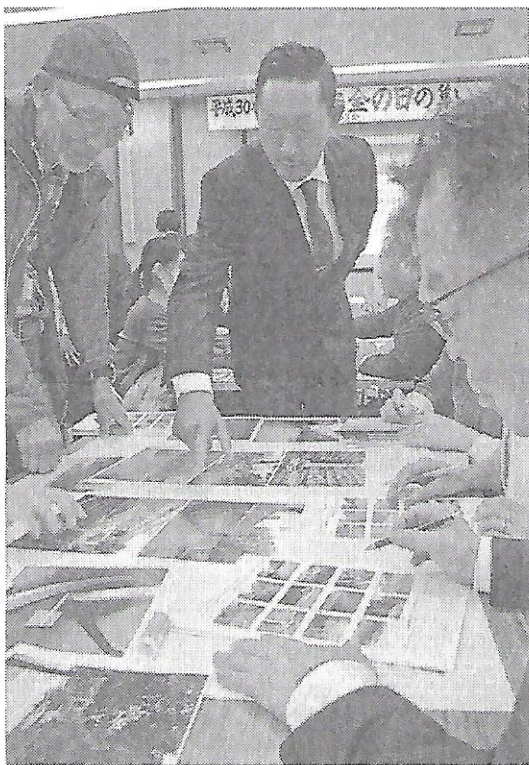
平成16年11月17日に発生した奈良市の小学生女児誘拐殺害事件を教訓に始まった「子ども安全の日の集い」(同市、同市教育委員会主催)が17日、同市役所で開かれた。仲川元庸市長や見守りボランティアら地域住民、警察、学校関係者ら約300人が参加した。

冒頭、犠牲となった当時7歳の有山楓ちゃんの実話を語り、参加者全員で黙とう。事件を風化させず子供の安全へ大人の意識を高めることを誓い合った。この後「子どもの危険予知・回避能力を育む取り組み」をテーマに報告、講演を実施。楓ちゃんが在籍した市

立富雄北小学校の教員、地域住民が実践報告を行った。また、児童殺傷事件を経験した大阪教育大学付属池田小学校の元

学校安全主任、松井典夫奈良学園大学准教授が講演。「どんな場所が危険か」を子供が自身で判断する力を育む「安全マップ」づくりを解説した。続くグループワークでは、参加者が子供の感性により強く訴えるキーワードを考えた。

このほか、命の大切さを伝える「生命(いのち)のメッセージ展」を初めて同時開催。参加者が事件、事故被害者の等身大パネルと向き合った。



グループワークで参加者にアドバイスする松井准教授(中央)17日、奈良市二条大路南1の市役所